

「第5次周南市地域福祉計画」策定のための 市民ワークショップ報告書

令和7年8月

周 南 市

目次

I	実施概要.....	1
1	実施の目的.....	1
2	実施日.....	1
3	実施場所.....	1
4	参加者.....	1
5	当日のプログラム.....	1
6	テーマ.....	1
II	ワークショップでの意見.....	3
1	各グループごとの意見.....	3
III	ワークショップの様子.....	9

I 実施概要

1 実施の目的

「第5次周南市地域福祉計画」の策定に向け、地域福祉に関係する団体の方（以下「地域住民」という。）及び若者を参加者として、地域の困りごとと若者の福祉に対するニーズのマッチングを図るためのアイデアを探るワークショップを開催する。

参加者は6人程度で1組となり、テーマに沿ってディスカッションを行い、ワークショップの結果は、若者の地域福祉への参画を促進する具体的な意見として計画に反映する。

2 実施日

令和7年7月25日（金）

3 実施場所

（午前）遠石市民センター、（午後）、周陽市民センター

4 参加者

地域住民	：	34人
若者（周南公立大学学生、市職員、社協職員）	：	19人

5 当日のプログラム

- | | |
|---------------|----------------------|
| ・冒頭説明（10分） | 挨拶、主旨説明、ルールの説明、自己紹介 |
| ・ワークショップ（65分） | 大判用紙に付箋を貼付・整理 |
| ・全体共有（10分） | 各グループの内容を発表（各グループ3分） |
| ・本日のまとめ（5分） | |

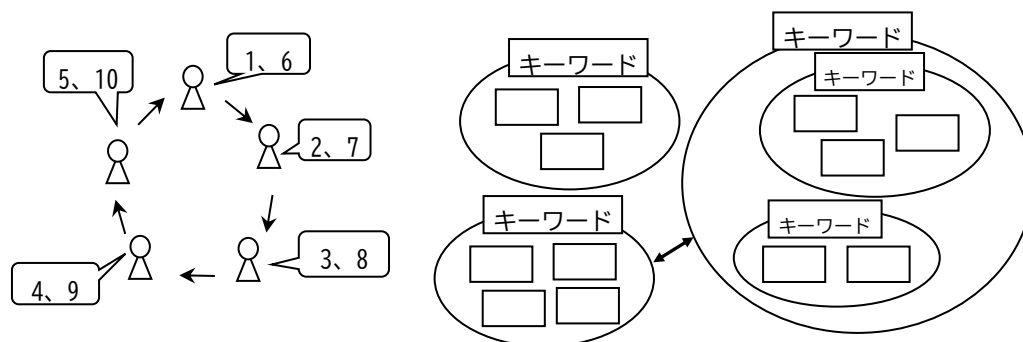
6 テーマ

「みんなの地域の“イマ”と“コレカラ”を話し合おう」

- ①「生き生き・きらきら（興味・関心、できていること）」、「もやもや（想い・不安・困っている）」
→ 地域住民：普段の活動を通して行っていること、活動を通して感じている地域の課題等
若者：授業や仕事、プライベートで地域と関わっていること、地域での活動に参加できない理由等
それぞれの視点から、地域資源や地域課題の掘り起こしをしてもらう。
- ②「ぼちぼち・やるやる」（①の意見を組み合わせることができること）
→ テーマ①における意見を組み合わせ、
地域住民：若い世代と一緒にこんな取り組みができそう、やってみたい
若者：こんな活動だったらできそう、やってみたい
それぞれの立場から、どのような取り組みができるか意見を出してもらう。

～具体的なワークショップの実施方法～

- (1) 配付した付箋に、テーマに関する意見を記入した。
- (2) 意見を記入した付箋を大判用紙に貼り付け、グループ内で順番に意見を発表した。多くの方の意見を確認するため、発表は1人1分程度とし、似たような意見がある場合は、その意見の近くに付箋を貼り、発表した。
- (3) 他人の発表を聞いて新たに思いついた意見があれば、随時、付箋を作成した。
- (4) 発表は全員の意見がなくなるまで続けた。
- (5) ある程度の意見が出た段階で、参加者は発表を聞きながら付箋の整理を行った。似たような意見の付箋を固め、(可能であれば) 内容をまとめたキーワードを記入した。参加者でのまとめがスムーズに行われない場合は、ファシリテーターがサポートした。



Ⅱ ワークショップでの意見

1 ワーキングまとめ

テーマ①

活き活き・きらきら（興味・関心、できていること）

交流・つながり

- 異世代が交流できる場がある（こども食堂・地域食堂）
- サロンが多い（高齢者サロン・子育てサロン）
- 集まって行う体操やおしゃべりが生活の張り合いになっている
- 地域交流の機会が多い
- 挨拶習慣・優しい人・人とのつながり

自然・住環境・交通

- 海・山に囲まれた自然豊かなまち（海がきれい、近くに緑がある）
- 治安が良く住みやすい（公園が多い・生活が便利）
- 新幹線が停まる・ちよい乗り 100 円バス・交通手段が多い
- 駅前が整備されてきれい、バザーやマルシェによるにぎわい
- 気候が温暖、自然災害が少ない

地域活動・ボランティア

- 地域防災活動（こどもから高齢者までをまき込む楽しさ）
- 防災共助
- 地域食堂（こども食堂含む）の広がり
- 通いの場・100 歳体操・地域カフェ活動
- 公園清掃・地域清掃・花だん整備などの環境活動

健康・生涯スポーツ

- 生涯スポーツ（高齢になっても体を動かす仲間がいる）
- 体操チームが元気、グランドゴルフチームが活発
- 老人クラブの活動
- 高齢者でも行事が楽しい
- 体を動かすことが好き（ウォーキングなど）

子育て・教育・若者

- 子育て支援（ファミリーサポート・医療費無償・こども相談会）
- コミュニティスクール・中学校や小学校とのつながり
- 高校生がたくさんいて、活気がある
- 大学生と地域の方の交流の機会が多い
- 公立大学の設置により若者が増加し、地域が明るくなった

情報発信・国際交流

- 国際交流サロンに参加している
- 大学を通して、いろんな人と関わりたい
- LINE での情報発信をしようとしている
- 地域の中での役割を持ちたい
- デジタルデバイスが苦手でも若い人が助けてくれる

文化・イベント・にぎわい

- 徳山競艇（SG オーシャンカップ）
- 徳山夏まつり・秋まつり・ツリーまつり
- 商店街・マルシェ・企業イベントが活発
- カフェ・ごはんや居酒屋・小さなパン屋・ケーキ屋が多い
- 徳山動物園・図書館・遠石市民センター

グループワークからのキーワード

- こども食堂やサロンなどを通して、こどもから高齢者までが自然に関われる環境がある
- 防災や清掃など、住民が主体的に支え合う仕組みが根付いている
- 中学生・高校生ボランティアなど地域・学校が協力する体制がある
- 高校生や大学生との交流が活発で、地域の活気や未来につながっている
- 海や山に囲まれ、温暖で災害が少なく、安心して暮らせる地域特性がある
- 新幹線・100 円バスなど交通手段が豊富で、移動しやすいまちづくりが進められている
- 祭り・マルシェ・商店街活動など、住民参加型の賑わい創出が多い
- 体操・スポーツ・老人クラブなど、健康づくりと社会参加の場が豊富である
- LINE などでの情報共有や、若者による高齢者支援が進んでいる
- 大学やサロンを介した国際交流により、多様な人との接点が生まれている

必要な取り組み

- 異世代交流の場を増やし、地域食堂やサロンを活用した世代間のつながりの強化
- 地域防災活動や共助の推進、地域食堂や通いの場を通じた支援の拡充
- 子育て支援の充実（医療費無償化、こども相談会など）と、地域の学校・コミュニティとの連携の強化
- 高齢者や若者の活躍の場を増やし、地域イベントや交流機会の創出の促進
- 地域の自然環境の保護・活用、交通手段の整備（新幹線やバスの利便性向上）により、住みやすい環境の維持
- 地域文化・イベントの充実（夏祭りやマルシェの開催など）による地域の活性化と観光促進
- 生涯スポーツの推進と、体を動かす楽しさを提供するコミュニティ活動の支援
- 地域内外の国際交流の促進と、多文化共生を進めるための教育・交流の場の提供

「もやもや」(思い・不安・困ってる)

地域活動・担い手不足

- 民生委員の担い手不足
- 地域活動の担い手不足(ボランティアの不足・担い手の高齢化)
- 地域活動への市補助金をもっと手厚くしてほしい
- リーダーの高齢化により組織がなくなる懸念
- 自治会が今後存続できるか不安

交流・つながり

- 地域に入るきっかけがない
- 住民間の横のつながりが減った、近所の付き合いが少ない
- 若い人・学生との交流が少ない
- 同年代で地域活動に参加している人がいない
- 声を掛けると参加するが自分から出る人は少ない

高齢化と人口減少

- 高齢化が進んでいる・地域のほとんどが高齢者(75才以上)である
- 若者が少なく流出している(雇用・行事参加が少ない)
- 将来人口が減るのではという不安
- 高齢者が集える場がほしい
- 三世代交流の場が少ない

交通・買い物・利便性の課題

- 公共交通の利便性が悪い(バスの本数が少ない・電車が少ない・バス代が高い)
- 駐車場・無料駐車場が少ない
- スーパーや商業施設の減少、閉店時間が早い
- 車がないと不便・買い物の不安
- 夜道が暗い・人通りが少なく怖い

学生・若者と地域の関係

- 大学に来てもすぐ戻ってしまう(地域に関わらない)
- 学生と地域の人とのつながりが少ない
- 大学近くにバイト先や遊ぶ場所が少ない
- 若い人が喜ぶイベントや活動が少ない
- 大学側がもっと地域に寄り添ってほしい

活動参加のハードル

- 1人で参加するのが不安、自分でも力になれるか不安
- 時間がない(仕事・学業・部活動で忙しい)
- 情報が入ってこない(地域活動の内容や窓口が分からない)
- ボランティア参加にお金や時間の負担が大きい
- 地域で活動している人が限られている

まちづくり・魅力不足

- 魅力あるまちづくりをやってほしい
- 徳山のまちをもっと活性化してほしい
- 商店街のシャッター化、遊ぶ場所が少ない
- 若者が楽しめる施設(ラウンドワン・スポッチャ等)がない
- 周南市は現状維持でアイデアが少ないと感じる

グループワークからのキーワード

- 民生委員や自治会など、地域活動を支える人材の高齢化と後継者不足が深刻化している
- 住民同士のつながりや声かけの機会が減少し、地域に新しく入る人の孤立も懸念される
- 大学生や若者が地域と関わる機会が少なく、交流や参加が生まれにくい状況にある
- 若者の流出が進み、将来の人口や地域の維持に不安を感じる声が多い
- 交通手段の不便さや買い物環境の悪化により、特に高齢者が生活に不安を抱えている
- 「時間がない」「一人で不安」「情報が届かない」など、活動参加への心理的・実質的負担がある
- 若者が楽しめる場や新しいアイデアの不足により、まちの将来像が見えづらくなっている
- 夜道の暗さや人通りの少なさによる防犯・安心感の欠如が課題となっている
- 大学が地域に十分関与しておらず、学生の地域定着や活動参加への働きかけが不十分
- 活動補助や支援制度が不十分との声があり、住民主体のまちづくりが進みにくい状況

必要な取り組み

- 地域活動の担い手を増やすため、若者・子育て世代への参加促進とリーダー育成プログラムを展開
- 高齢者の孤立防止と交流促進を目的とした「地域の居場所（サロン・カフェ等）」の設置・運営支援
- 学生や若者と地域とのつながりを強化するため、大学や学校と連携した地域活動や交流イベントを開催
- ボランティア参加のハードルを下げるため、気軽に参加できる体験型・短時間型プログラムを充実させる
- 公共交通や買い物環境の改善に向けて、バスの本数や運賃補助、移動販売などの生活支援策を実施
- 住民同士のつながりづくりとして、多世代・多文化交流の場を定期的に設け、参加しやすい雰囲気醸成
- 地域の情報発信力を高めるため、Web や SNS を活用した情報提供の強化と、誰でも分かりやすい案内体制の整備
- 商店街の活性化や地域経済の再生に向け、若者向け店舗・イベントスペースの創出と空き店舗活用の推進
- 若年層の地域定着を目指し、魅力ある仕事・住環境づくりと地域に根差した暮らしの支援制度を充実させる
- 夜間の安全確保とまちの魅力向上のため、街灯整備や防犯対策、ナイトイベント等の仕掛けを導入

テーマ②

ぼちぼち・やるやる

(テーマ①で出た意見をどんな意見でもいいので組み合わせよう)

若者・学生と地域の連携

- 大学生会議から参加してほしい
- 大学と地域の情報連携（授業・ゼミ・地域活動）
- 学生が地域イベント（祭り・こども食堂等）に参加する機会づくり
- コミュニティ組織に学生部を作る
- 若者を巻き込んだ地域活動（学生主催イベント・ボランティア）
- 大学から地域活動の情報提供をする仕組みづくり

異世代交流・居場所づくり

- 高齢者とこども・若者の交流イベント（スポーツ大会・お祭り・異世代対話の場）
- 気軽に参加できるカフェや交流スペースの設置
- 一緒に体を動かせる場（スポーツ・小イベント）
- ひとり暮らし高齢者や学生が話せる交流機会
- 幅広い世代が集まれる多世代交流イベント
- 気軽に立ち寄れる「暇つぶしを楽しむ場」づくり

情報発信・参加促進

- 地域活動の情報発信（SNS・チラシ）
- 大学生への情報提供方法の見直し（SNS・インスタ・X(Twitter)）
- ターゲットを絞った参加者の募集・きっかけづくり
- ボランティア情報を分かりやすく提供（証明書・参加記録など）
- 名刺交換や代表者同士のつながりづくり
- まずは小さなお手伝いから参加できる仕組み

アイデア・企画づくり

- 活性化されていない場所のアイデア募集
- 地域とつながるワークショップや中規模のまちづくり
- 若い人（大学生）が考える若者向けイベント
- 学生と地域の意見交換、アイデア共有
- 地域課題やニーズを学生に伝え、一緒に企画

イベント・まちづくり

- つながりたい（地域と若者・世代を超えた交流）
- 祭りやマルシェで世代を超えたブース参加（こども・若者の企画）
- 若い人を地域に呼び込むおしゃれなまちづくり（店・カフェ）
- 空き家や空き地の活用（スポーツ・居場所・地域食堂）
- 「コンビナート夜景×花火大会」など地域資源を活かしたイベント
- 若者向け施設・科学館などの要望

活動のきっかけ・入口づくり

- チラシを作ってほしい（情報アクセスの改善）
- 有償ボランティアやバイトと地域活動の両立で参加のきっかけづくり
- 体験から関心を持ってもらう（1回参加型イベント）
- 出席・証明書の発行で動機づけ
- 交流会や意見交換会を定期的に開催

地域課題への協力・共助

- 地域防災を通じた世代、国を越えた協力体制
- 高齢化した生活応援隊の立て直し（若者と連携）
- 無・減農薬農業→地域食堂など地域課題と活動の連携
- 福祉施設訪問や交流活動の推進
- 生態系保全活動や平和学習観光など地域資源を活かす活動

グループワークからのキーワード

- 大学や学生と地域との接点が限られており、継続的な関わりや仕組みづくりが求められている
- 高齢者・こども・若者が自然に集まる場が少なく、交流機会の創出が必要
- 地域活動に関する情報が若者に届いておらず、SNSなど現代的な発信方法への対応が不十分
- まちの魅力やイベントに若者視点が欠けており、楽しみながら関われる要素の導入が求められる
- 「初めてで不安」「参加のきっかけがない」など、若者が一歩踏み出しにくい構造が課題
- 空き家・夜景・自然などの地域資源が十分に活かされず、イベントや場づくりのアイデアが不足
- 地域防災や福祉活動において、若い世代の役割を明確にし、巻き込む体制が必要
- バイトや単位取得といった要素と組み合わせることで、参加しやすい仕組みづくりが求められている
- 学生の視点を活かしたまちづくりが進まず、意見交換や共創の場が限られている
- 地域活動を持続的に行うための補助や組織基盤が脆弱で、長期的視点での体制整備が求められる

必要な取り組み

- 大学・学生と地域との連携強化による若者の地域参画促進と人材循環の仕組みづくり
- 地域イベントや地域活動への学生参加の機会創出と、大学との連携による持続的支援体制の構築
- 世代を超えた交流イベントの開催や、誰もが気軽に集える居場所の整備による地域のつながり強化
- SNS やデジタルツールを活用した情報発信の改善と、大学生・若者に届く周知体制の構築
- 若者を引きつけるおしゃれなまちづくりや空き家・空き地の利活用による地域活性化の推進
- 短時間・有償参加などの多様な入口づくりによる地域活動への参加促進と、学校の協力等による動機づけ支援
- 地域防災・農業・福祉・環境活動を通じた若者と高齢者の共助体制の再構築と実践的な学びの場の提供
- 地域課題を学生と共有し、意見交換やワークショップを通じた若者主導のアイデア・企画づくりの推進

Ⅲ ワークショップの様子





